



## 水野さんに対するパワハラの実態 その⑩

# 体調が悪いのに強制家庭訪問!

## 『土足で他人の家にかかる』管理職達

精神科の診察を受け家で休養していた水野さんに、グループ長でもあった川口助役から突然電話がきました。なんと、「心配だから家まで行く」と言うのです。水野さんは、「体調が悪いのに家にまで来られるのは困る」「川口助役は明けだから遅くなると大変だから」と断りましたが、川口助役は「大事な部下だから」とか、「個人的にすごく心配している」と言って、無理矢理「一人で行くから」と一方的に言ってきました。

いま、これを読んでいる皆さんは、上司や先輩から「個人的に」とか、「心配している」と言われたら断れますか？

これが、**会社が「会社と個人との境」をなくして、個人的(プライベート)なこと**にまで付け込んでくる卑劣な手段なのです。

水野さんは、川口助役の来訪が夜になるため、自宅で自分と川口助役の二人分の食事の用意してから、待ち合わせの最寄駅まで迎えに行きました。しかし、そこには川口助役だけでなく軍司営業科長もいました。軍司営業科長は、「自宅が近いから一緒に来た(実際はかなり遠い)」と言っていました。なぜか水野さんの姿や住んでいる家の外観を社用携帯で勝手に撮影をはじめました。そして、家に上がると水野さんの体調を案ずるところか、「案外綺麗にしてるじゃん」とか「出向は3年で戻れるから」等と凶々しい発言を繰り返したのです。

一体、何のための家庭訪問だったのでしょうか。彼らはまさに『他人の家に土足で上がってきた』のです。

体調が悪いのに管理者二人に家に踏み込まれて、その対応で疲れ切ってしまう、水野さんはこの時もその後の記憶が全くありませんでした。

